

お父さんへ

思えば、生前、お父さんに手紙を書いたことなんて
あまりなかったですよ。だから何を書いていいのか分からない
けれど、今のお父さんへの正直な気持ちを綴ることにします。

“人生100年時代”と言われるけれど、人が100年生きると
いうことは、本当に一言では語れない重みがあると、ほぼ
100年生きたお父さんを見てきて感じています。戦争を体験し、
両親を早くに亡くしたお父さんにとって、幼い弟や妹の面倒を
みながら生活していくことは、さぞ大変な苦勞があったことと
思います。でもそんな苦勞を私達家族に感じさせることなく、
お父さんはいつも温かく私達家族を支えてくれました。

子どもの頃は反抗したこともあったけれど、「自分のやることには
自分で責任を取りなさい。」と言って、最終的には私のやりたい
ようにさせてくれたお父さん。お父さんのお陰で、「自分で
自分を律することを学び、成長することができた」と私自身は
思っていますが、お父さんから見た私はどうだったでしょう。

手本のような存在だった親が、晩年、徐々にできない事が

増えていくのを間近で見るのは、子として正直辛いものがありました。けれど、人間が歳を取るといことは、段々と赤ちゃんに逆戻りしていくようなものなんだと、お父さんが身をもって示してくれたような気がします。そして、自分の人生を最後まで全うすることの尊さをお父さんから学ばせてもらいました。

今私からお父さんに言えること、それは「ありがとう」の一言です。お父さんの声、くしゃっとした笑顔にはもう会えないけれど、お父さんはいつまでも私の心の中にいます。

最後に、もしまた生まれ変わったとしても、お父さんの娘でいさせてください。

令和7年8月6日

あなたの娘より